

救急医療情報キットの配布（東京都港区）

- ポートランド市（米オレゴン州）を参考に全国で初めての実施
 - 明治学院大学の岡本多喜子教授の提案を受け、米オレゴン州ポートランド市の実践例をヒントに港区と東京消防庁と共に事業内容を検討
 - 平成20年5月より配布開始
 - 区民であれば申請して受け取ることができ、区内の高齢者の約1割が保有
- 保管場所を冷蔵庫に統一
 - 現場で救急隊員等が探す際に見つけやすいよう保管場所を冷蔵庫に統一
 - キットが冷蔵庫に入っていることがわかるように玄関ドアの内側と冷蔵庫に添付する救命救急活動のシンボルマークを共に配布

救急医療情報キットに入れるもの

- ① 救急情報
緊急連絡先、かかりつけ医、緊急時の対応方法などを記載
- ② 写真（本人が確認できるもの）
- ③ 健康保険証（写）
- ④ 診察券（写）
- ⑤ 薬剤情報提供書（写）・お薬手帳（写）



医療情報キットの配布

- 全国の自治体に取り組みが波及

- 夕張市、日の出町、静岡市、相生市、北九州市、中津市等で同様の取り組み

- 市民有志グループの提案により実施（北海道夕張市）

- 65歳以上高齢者が人口の43%、独居高齢者世帯数が全世帯の約3割を占める同市において、救急処置迅速化を図るため、市民有志グループ「ゆうばり再生市民会議」の事業として助成金等を活用して実施

- 市内500世帯にモニター事業として試験的に配付

- 民生児童委員の提案により実施（大分県中津市）

- 今津校区の民生児童委員会が同市社会福祉協議会と相談し住民に提案

- 市の災害時要援護者避難者支援計画を元に今津校区の75歳以上の高齢者と障害、持病のある方を住民200人を対象に、合意が得られた方から配付